

【177】

氏名	三木順一 みきじゅんいち
学位の種類	医学博士
学位記番号	論医博第246号
学位授与の日付	昭和40年12月14日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	ニホンザルの諸臓器のリンパ装置に関する研究

論文調査委員 (主査) 教授 堀井五十雄 教授 西村秀雄 教授 岡本道雄

論文内容の要旨

健康なるニホンザル10例（♂5，♀5）を用い、諸臓器のリンパ装置の出現と発達について検索した。

- 1) 耳下腺，顎下腺，舌下腺とも全例，腺導管分岐部に位置する上皮下リンパ小節又はリンパ浸潤を認めた。舌下腺にはやや多く出現する傾向にあった。
- 2) 肝臓では全例に肝小葉間隙の胆管壁又は静脈壁にリンパ浸潤を認めた。リンパ小節は全く認めず，肝小葉内にはリンパ装置は認めなかった。唾液腺と肝臓とのリンパ装置は高等哺乳動物の場合と類似する。
- 3) 胆嚢にはリンパ装置を認めなかった。
- 4) 脾臓では頭部では認めず，体部では少数，尾部では多数，静脈壁性又は腺導管壁性のリンパ装置を認めた。又尾部に脾組織の迷入を認めたものが少数ある。脾臓の尾部におけるリンパ装置の出現は人及び他の哺乳動物（除家兎）にみない特異なことである。
- 5) 腎臓は全例に，全経過を通じ，被膜下リンパ装置と固有層静脈壁性リンパ装置と，細尿管上皮下リンパ装置とを認めた。
- 6) 尿管にはリンパ装置を認めなかった。
- 7) 膀胱では豊富に固有層内静脈壁リンパ装置を認めた。
- 8) 精巣，精巣上体では，何れも出現率低く，間質の静脈壁性のもの，又は被膜内リンパ浸潤をわずかに認めた。
- 9) 精嚢では全く認めなかった。
- 10) 前立腺も出現率は低く，間質にあるものと，腺導管上皮下にあるものとをわずかに認めた。
- 11) 子宮では体部には認めなかったが，頸管には豊富に出現する。卵管では間膜中にリンパ装置を認めたが，間質と峽部とは発見出来なかった。

- 12) 膾では全例、豊富に上皮下又は静脈壁性リンパ装置を認めた。
- 13) 卵巣では認めなかった。  
生殖器のリンパ装置の出現率は、多産系小動物の場合より低く、人に近い傾向にあった。
- 14) 甲状腺では豊富に汙胞上皮下リンパ装置を認めた。
- 15) 下垂体では出現率低く、人以外の哺乳動物に近い傾向にあり、弱い上皮下リンパ浸潤を認めた。
- 16) 腎上体では全例に認めなかった。
- 17) 涙腺では全例腺導管分岐部に位置する上皮下リンパ装置を認めた。唾液腺の場合に類似する。

以上、ニホンザルの諸臓器のリンパ装置の出現と発達とよりみるに、その分化の程度は、あるものは人の場合と殆んど差異はなく、あるものでは他の哺乳動物に近い傾向にあるといえる。

### 論文審査の結果の要旨

リンパ組織の分布に関する系統的研究の一環として行なわれたもので、従来断片的な研究しかなかったニホンザルについて、10例の健常例について全身諸内臓のリンパ組織出現の有無と態度について精密な研究をとげて、この方面の知見に新しい一頁を加えたものである。

1) 消化器系実質性諸内臓におけるリンパ組織出現の態度は、唾液腺および肝臓においてはヒトの場合に酷似するが、膵臓におけるものは、やや特異的でむしろ家兎のそれに近い。

2) 泌尿生殖器系内臓におけるリンパ組織出現の態度は、従来詳しい研究のなされたウサギ、ラットなどに比べると、類縁関係は少なく、ヒトのそれに近い。

3) 内分泌系諸内臓では、とくに下垂体のリンパ組織出現の態度はヒトよりも、ウサギ、イヌ、ネコ、ラットなどのそれに近い状態を示した。

要するに本研究はニホンザルにおける正常リンパ組織の分布を明らかにしたもので、基礎的資料として役立つばかりでなく、比較組織学の立場からもその位置づけを明らかにしたもので、意義深いものといえる。

本論文は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。